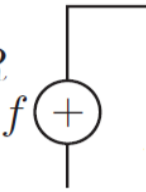

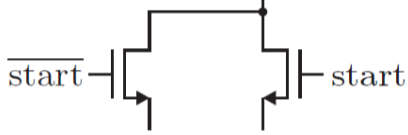
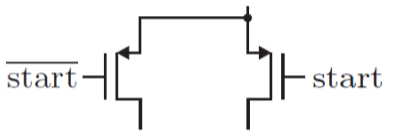


頁	行・図・式	誤	正
28	8行目	※「ナイキストのサンプリング定理」に関する追加注釈 この定理は1949年にシャノンにより証明されたためシャノンのサンプリング定理と呼ばれることもある。一方、同年、シャノンとは独立に染谷勲によっても証明されていたが、残念なことに日本語出版であり、ソメヤのサンプリング定理と呼ばれることはほとんどない。 参考文献：小川英光「標本化定理と染谷勲」電子情報通信学会誌 Vol.89,No.8,pp.771-773, 2006年8月	
72	図3.23 (a)	$\overline{v_n^2} = 4kTR$ 	$\overline{v_n^2} = 4kTR\Delta f$ 
74	式 (3.27)	$v_s^2 = \frac{V_{FS}}{2\sqrt{2}}$	$v_s^2 = \left(\frac{V_{FS}}{2\sqrt{2}}\right)^2$
80	5行目	式 (3.34) で決まる出力 V_{out} が	反転された比較結果が出力 V_{out} として
82	1行目	反転されて	反転されず
84	下から2行目	このとき、式 (3.34) を満足する出力が	このとき、 V_{out} を反転すれば式 (3.34) を満足する値が
103	1行目	指数関数的に	その2乗に比例して
168	図5.47		
176	3行目	比較して遅れた	比較して進んだ
208	式 (6.33) 中	nT_s	nT_s ※sは下ツキ文字
	式 (6.34) 中	nT_s	nT_s ※sは下ツキ文字
215	式 (6.48) 右辺	$= \frac{1}{N} \frac{1 - e^{-j2\pi NfT_s}}{1 - e^{-j2\pi fT_s}}$	$= \frac{1}{N} \left \frac{1 - e^{-j2\pi NfT_s}}{1 - e^{-j2\pi fT_s}} \right $
216	式 (6.51) 右辺	$\rightarrow \overline{q_1^2} = \frac{2e^2}{N}$	$\rightarrow \overline{q_1^2} = \frac{2e^2}{N^2}$
224	本文下から2行目	W/s	Ws
236	下から4行目	入力 V_{in} を C_i	入力 V_{in} を C_s
237	3行目	C_i に残る電荷量は	C_s に残る電荷量は
245	1行目	3次シェイピング構成 ¹³⁰⁾	3次シェイピング構成 ¹³⁸⁾
271	5行目	※引用・参考文献の追加 138) M. Ranjbar, A. Mehrabi, O. Oliaei, and F. Carrez, "A 3.1 mW continuous-time $\Delta\Sigma$ modulator with 5-bit successive approximation quantizer for WCDMA," IEEE Journal of Solid-State Circuits, vol. 45, no. 8, Aug 2010, pp. 1479–1491.	